

第一次導入校ワーキンググループにおける主な発言内容

1 探究的な学びについて

- ・探究的な学びを6年間しっかりと取り組めるのは魅力的。
中学によっては、行事の準備等により、総合的な学習の時間が有効的になっていないこともある。
- ・探究的な学びにより、子どもたちが「なぜ」と思うことを大切にしていけば、生徒はより積極的に学ぶようになるのでは。
探究的な学びと知識は両輪であり、結果的に学力も向上するのでは。
- ・子どもは、教員以上に子どもが育てるもの。中学の総合的な学習の時間は、学年ごとに行うことが多いが、上級生と下級生がつながりを持つと良いのでは。
- ・本物に触れることが大切。高校生が本物（大学・企業・行政等）に触れれば、高校生から中学生へ伝わっていくのでは。
- ・数ヶ月に一度、総合的な学習の時間を一日にまとめる日を設ける中学もあったので、参考にしたらどうか。

2 混合時期について

- ・先取り学習による学習進度の差を、高校1年で調整して2年で混合する考え方と、高校1年で混合することで、内進生がリーダー的役割を担い、探究学習も含めて内進生が外進生をフォローする考え方がある。
- ・探究学習をしっかりと取り組むと、内進生と外進生とで、探究学習の学び方に差が出る。外進生が、探究学習の手法等を学ぶ場が必要となるのでは。

3 伸ばしたい能力について

- ・小学生にも分かる言葉を選ぶことが必要。例えば、「批判的思考力」は、高校では当たり前の言葉となっているが、小学生に分かるだろうか。
- ・伸ばしたい能力には、自主性やICTの活用、心の育成や多様性も位置付けたらどうか。

4 入学者の選考方法について

- ・通知表の写しによる提出を可とするなど、小学校の負担を減らしてもらいたい。

5 教員の配置について

- ・中高交流人事は大事。高校から中学に来てもらいたいし、中学も高校のことをもっと知りたい。
- ・開校時に運営をスムーズにすることや、高校教員に比べて小中教員が少ないことから、運営の中心となる教頭（副校長）や主任は、小中教員としても良いのでは。
- ・副校長を置くなら、副校長も授業を受け持つのか。40代の主任クラスを、県立中学に出すのは地元として苦しい。新しいことを始めるなら、若い教員でも良いが、異動初年度に主任をするのは大変。
- ・中高一貫校では、地元の小中学校と動きが違うのではないか。小中教員を配置するなら、主任ではなく、生徒と直接接する立場の方が良いのでは。
- ・併設中学校が3学級揃った段階で12人配置とあるが、開校1・2年時の教員配置も考えないといけない。
- ・技術の教員は足りておらず兼務は難しい。非常勤による対応は考えられないか。

6 その他

- ・保護者へ早めに情報を伝えていかないといけない。
- ・保護者への説明会で、大学入試のあり方を大学教授が説明すると、保護者の理解が深まるのでは。
- ・併設中学校から併設高校へ必ず進学しなくても良いことを明記すると、子どもが安心するのでは。
- ・大学へ進学する生徒がほとんどであるので、大学が、探究学習をどのように考えているのか知りたい。
- ・高校では、中学校で行われている総合的な学習の時間の状況をよく把握してないため、教えてもらいたい。
- ・中学の様子（授業等）を、高校の教員が知ることができるよう、市町村で調整したい。